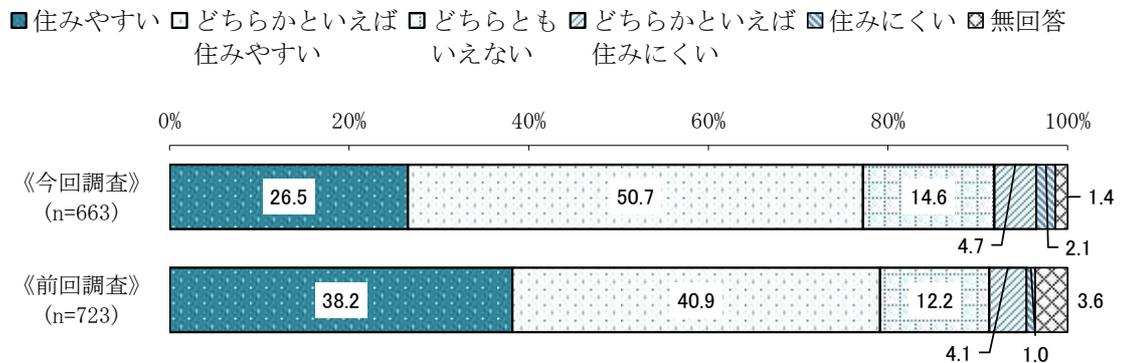
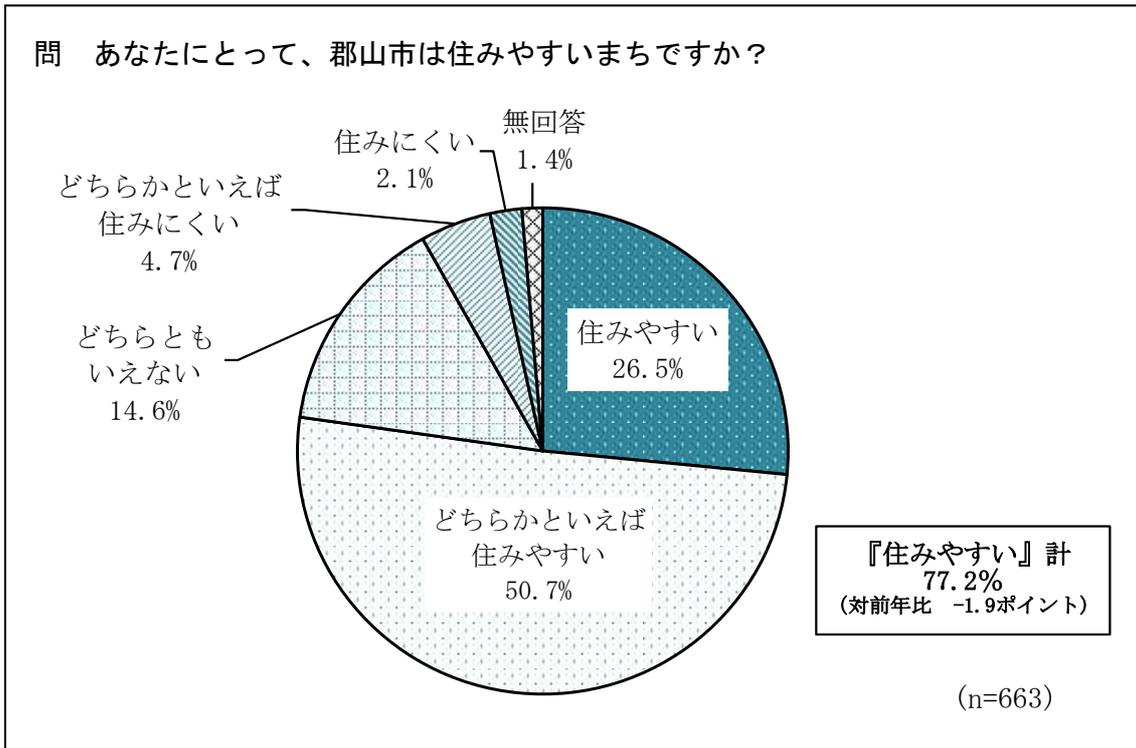


## 2. 郡山市の住みやすさなどについて

### (1) 住みやすさへの評価



### 8割弱の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

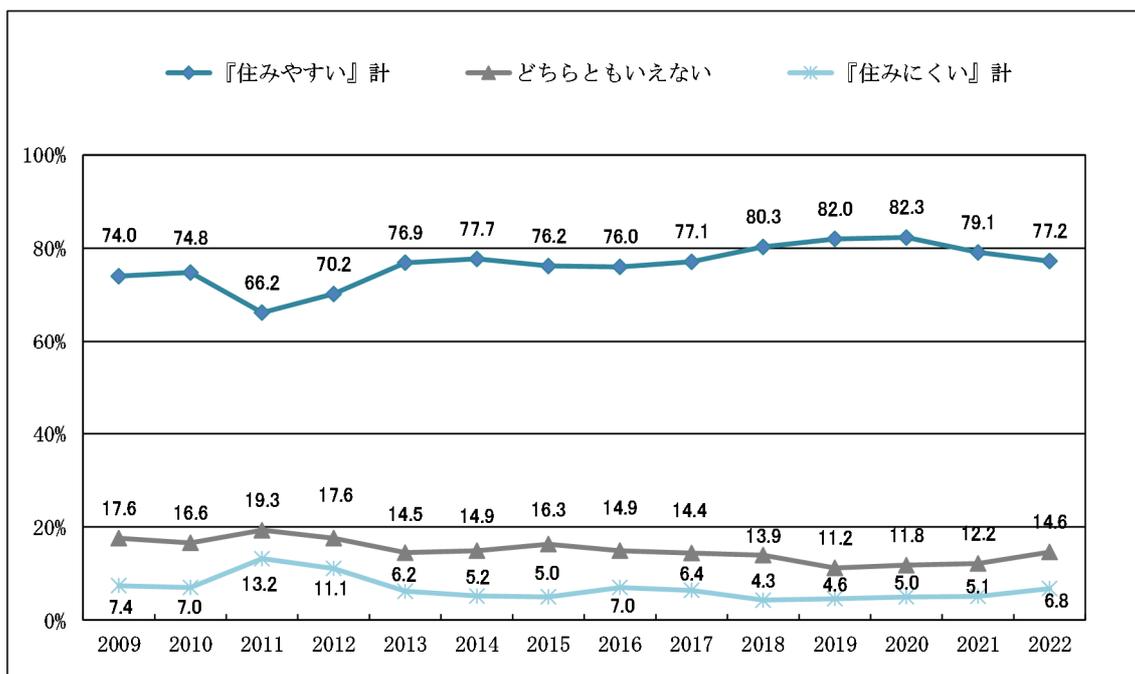
#### 【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(26.5%)と「どちらかといえば住みやすい」(50.7%)の両者を合計すると『住みやすい』(77.2%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.7%)と「住みにくい」(2.1%)を合計すると『住みにくい』(6.8%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは1.9ポイント低下しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』の合計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、横ばいで推移しています(図2-1参照)。

図 2-1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-2 参照）

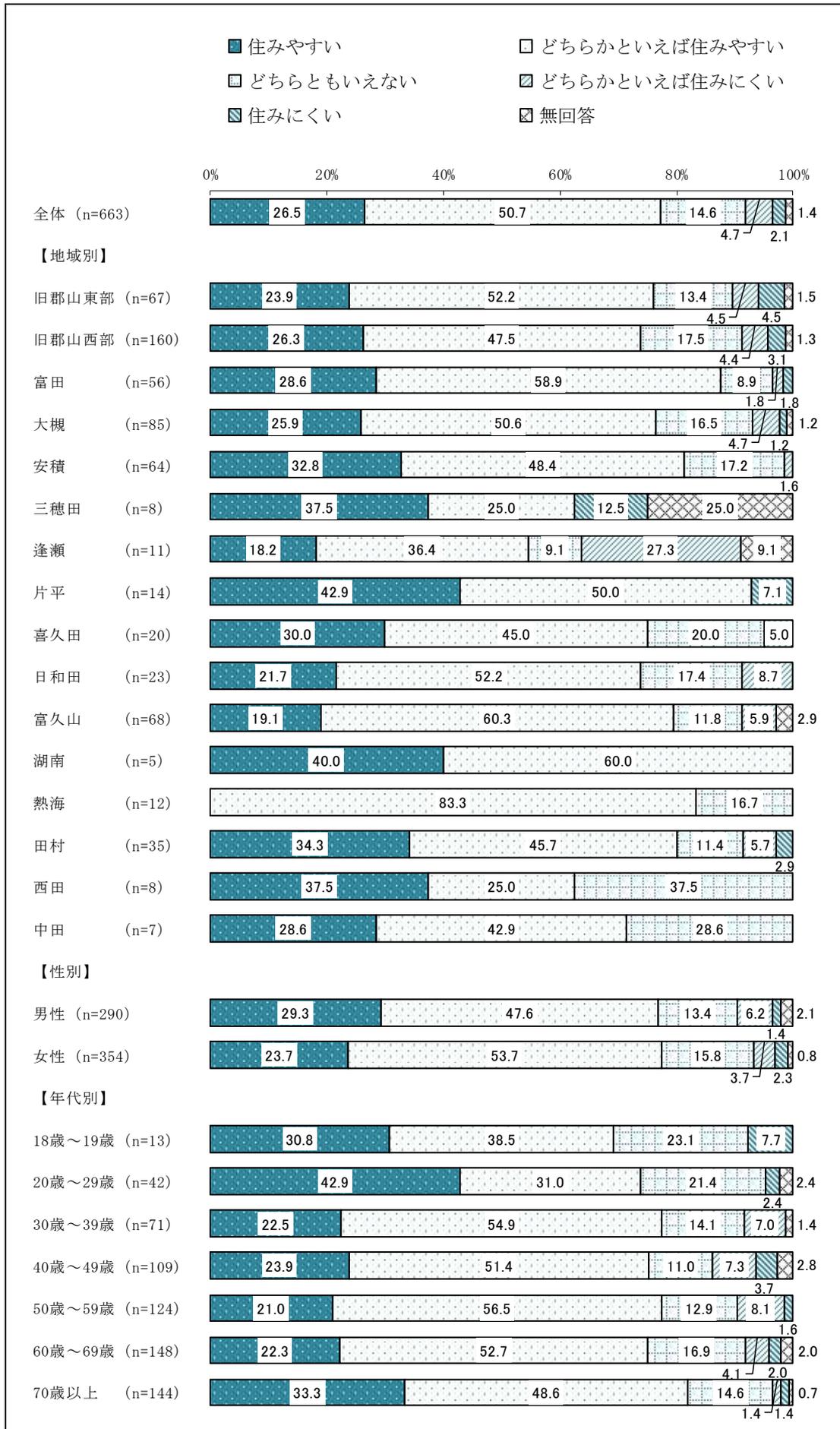
① 性別

『住みやすい』の割合は、女性（77.4%）の方が男性（76.9%）よりもやや高くなっています。

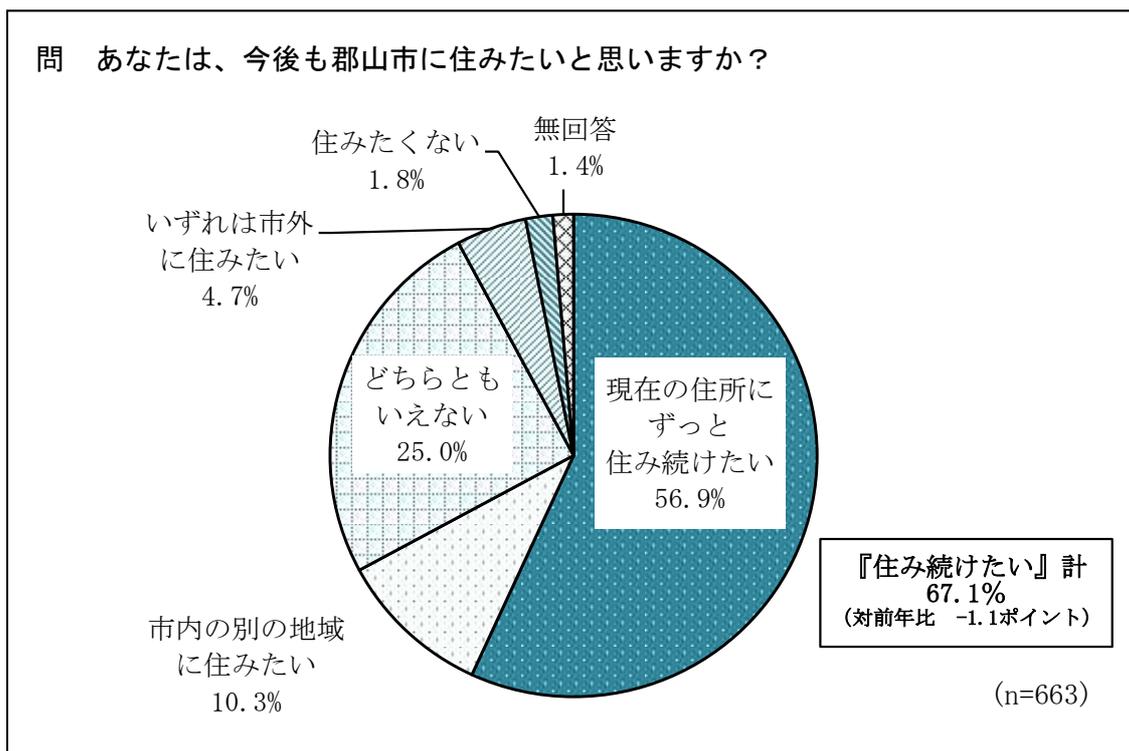
② 年代別

『住みやすい』の割合は、すべての年代で7割以上となっています。

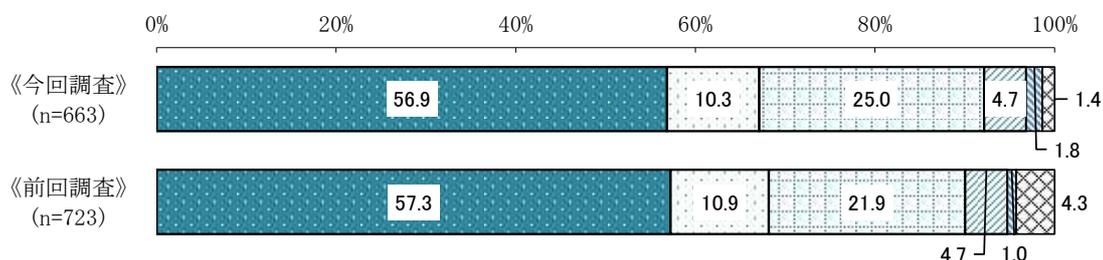
図2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



## (2) 今後の居留意向



■現在の住所にずっと住みたい □市内の別の地域に住みたい □どちらともいえない □いずれは市外に住みたい □住みたくない □無回答



——— 7割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている ———

### 【全体結果】

今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(56.9%)と「市内の別の地域に住みたい」(10.3%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.1%)となっています。

前項の『住みやすい』の合計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」が1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.7%)と「住みたくない」(1.8%)を合計すると『市外への転出意向がある』(6.5%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2011年をピークに減少し、2013年以降、横ばいで推移しています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

① 性別

『住み続けたい』の割合は、女性（70.6%）の方が男性（62.4%）よりも高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（80.6%）で最も高く、次いで60代（73.0%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代（14.3%）で最も高くなっています。

図 2-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）

